

中小企業地域資源  
活用促進法に基づく



わが市町村の  
ふるさと名物は  
これ!

## ふるさと名物

Furusato Meibutsu

## 奈良県下市町 が応援するふるさと名物

「薬膳」でみんなが健康・元気





ふるさと名物  
Furusato Meibutsu

# 応援宣言！

平成28年9月1日

地域の  
プロフィール

## 奈良県下市町



下市町は、奈良県吉野郡にある町で奈良県のほぼ中心に位置し、大阪方面から電車で約1時間の便利な田舎です。歴史的には特に中世以降、吉野地域の玄関口として発展しました。

主要産業は農業、4800haを超える森林資源を背景とする林業（吉野杉や吉野桧）、割り箸、三宝、神具などの木工産業です。割り箸発祥の地であり、神様へのお供の際用いる神具 三宝の生産は、全国シェアの約9割を占めています。また、日本最初の商業手形「下市札」を発行した地でもあります。

▼薬用作物等の栽培農地（菊芋・南天・山椒等）



農業では、全国有数の柿の産地であると共に、梅・南天・山椒・柿の葉等多く栽培されており、こんにゃく芋・シャクヤク・ハーブ等の栽培も年々増えています。

また、それらを使った加工品が多く作られています。



# ふるさと名物の内容

## 1

主な地域資源

### 「薬膳」

江戸時代中期の享保3年、8代将軍 德川吉宗の命により江戸小石川に薬草園が開かれ、全国に採薬使を派遣。下市には幕府の採薬使 植村左平次が訪れ、願行寺・堀池・樺の木に薬草園を開きました。幕府から貴重な苗が下附され、下市薬草園で栽培されるようになったことから下市の一大産業となっていました。これに伴い薬種問屋や薬店も増え、寺院や薬屋などでも独自の薬湯等の製造販売をしていました。

これらの薬草栽培の面影は現代にも残り、当時の段々畠や野生化した薬草がいたる所に見られます。南天・げんのしょうこ・当帰・さんしょう等が花を咲かせ実をつけていると共に、現在でも多くの薬用作物や柿・梅・こんにゃく芋・ハーブ・吉野葛等が栽培・加工され食べられています。また、下市町商工会薬膳プロジェクトによる「シモイチまるごと薬膳計画（※1）」、農業組合等による「シャクヤク、柿の葉の栽培（※2）」、自治会による「薬草とハーブのむらへいばら元気事業（※3）」などの新たな取り組みが行われています。



#### ※1 「シモイチまるごと薬膳計画」

下市町を薬膳の町としてアピールし、多くの方々に訪れてもらうべく発足。下市町商工会が中心となり、「美味しいも、体にいいも、ぜんぶ！」を合言葉に、薬草を使った名物品の開発や町おこしイベントなどを企画しています。

#### ※2 「シャクヤク、柿の葉の栽培」

約2haの農地でのシャクヤク栽培と、営農を諦めようとしている高齢農業者等を中心に、柿の「実」から「葉っぱ」に栽培を転換して、営農期間の延長を目指しています。

#### ※3 「薬草とハーブのむらへいばら元気事業」

樺の木薬草園があった平原（へいばら）で、薬草とハーブを使った元気なむらづくりを目指し、薬草・ハーブの栽培、加工、地元食材を使ったピザハウス（地域食堂）の運営等を地域みんなで行っています。

# ふるさと名物の内容

## 2

### ◆ 「薬膳」でみんなが健康・元気

ふるさと名物

**薬膳とは健康維持や健康増進、病気の予防や回復、不老長寿などを目的とした料理、献立。**

下市町では、つるし柿、あんぽ柿、柿の葉寿司、里芋のおはぎ、こんにゃく、梅干し、梅エキス、吉野葛等が食されており、柿の葉茶、柿の糖蜜漬け、ハーブティー、ハーブピッツア、薬用ソルト、ごんたもち、トウキ茶、ハーブ葛湯等の新たな加工品も生まれています。また、**薬膳にちなんだ様々な取り組みも始まっています。**

これら**薬膳を日々食し、みんなが健康で元気になることが町の活性化にもつながります。**薬膳の材料となる様々な加工品の開発及びその原料となる下市産の農産物等の栽培を推進し、薬膳とその取り組みを奈良県内から全国に広めていきたいと考えています。



# 市町村の取り組み

1

独自の支援策  
体制

- ・首都圏を始め各地で開催されているイベントや物販展等で薬膳にちなんだ様々な加工品の展示・販売を行うと共に、下市町商工会と連携しインターネット販売サイトを立ち上げ、販路拡大を推進します。
- ・町内の飲食施設での薬膳メニュー開発支援や、各種イベントにおいて、薬膳の試食、加工品づくり体験など薬膳にふれる機会を増やしていきます。
- ・薬膳の材料となる加工品の開発支援と共に、その原料である農産物等の栽培法の講習や下市町の推奨作物への登録などの支援を行います。
- ・下市町商工会薬膳プロジェクトによる「シモイチまるごと薬膳計画」、農業組合等による「シャクヤク、柿の葉の栽培」、自治会による「薬草とハーブのむらへいばら活性化事業」の活動支援と共に、下市町及び下市町観光協会が連携し、取り組みが地域全体に広がり継続的に行われる事を目指します。
- ・現在も薬膳の材料となる様々な加工品が作られていますが、個々の単発的な取り組みとなっている事が多く、今回の宣言により地域全体・継続的な取り組みとすることで、みんなが健康で元気になる事を目指すと共に、下市町の薬膳ブランドとしての定着を目指します。

▼六本木ヒルズイベント



▼JR新宿駅物産展



# 市町村の取り組み

2

広報

- ・下市町役場のホームページでの広報、町公式フェイスブック（登録約2800件）での情報発信、各メディア（新聞・雑誌・テレビ等）への掲載推進を行います。また、観光協会や商工会でも同様の取り組みを推進します。
- ・自治体初のケーブルテレビ局「しもいちテレビ」で薬膳関係の取り組みの取材・放送を行います。また、番組のインターネットによる動画配信も行います。
- ・東京日本橋の奈良県アンテナショップや奈良県北部を中心に町長や観光協会会長によるトッププロモーションを行います。
- ・町や観光協会等が実施するイベント（夢まつり、夏市、初市、梅まつり等）で、薬膳の提供を行ったり、広報やニーズ調査等を行います。
- ・町や観光協会等が参加するイベント時などに、薬膳の取り組みの広報を行います。
- ・薬膳の取り組みに係るポスター等を作成し、広く周知していきます。

▼しもいちテレビによる広報



▼トッププロモーション（イメージ）



# 市町村の取り組み

3

タイプ

- ・飲食施設での薬膳の提供を推進します。
- ・地域おこし協力隊等と連携し薬膳と運動を組み合わせた薬膳ヨガ（ヨガの後に薬膳を食す）などの取り組みを行います。
- ・薬膳と農業体験を組み合わせた農業体験de薬膳（収穫した農産物等で薬膳やその材料となる加工品をつくる）などの取り組みを行います。
- ・小さな道の駅「札の辻ステーション」と連携し、薬膳に係る各種取り組みの情報発信や、薬膳にちなんだ様々な商品の販売を行います。



下市町は、薬膳の原料となる農産物を地域で栽培し、色々な加工品を開発し、それを食す取り組みを応援します。そして、みんなが健康・元気な町を目指します。

## 下市町長からのメッセージ

下市町は、奈良県の中心に位置する吉野郡の北部にあるまちです。

現在、地域の現状を見つめ、自主的に元気な地域づくりを行う取り組みが町内の各地域・団体で進められています。

薬用作物を活用した加工品開発、薬草とハーブを活用したむらづくり、「美味しいも、楽しいも、体にイイも、ぜんぶ！」を合言葉に薬草等を使った名産品の開発や町おこしイベントを行う薬膳プロジェクト、健康増進効果があるとされている農作物の栽培と加工など、「薬膳」にちなんだ多くの取り組みが生まれています。

これは、享保年間8代将軍吉宗の時代より薬用作物の栽培が始まられ、現在にまで続いているという歴史と誇りがあるからこそだと考えています。

人の元気が地域の元気となり、まちの元気になります。人の活動の源である食、それに至る農作物の栽培、より美味しい健康的な食品等への加工、美しく美味しい食事とする調理など全ての過程が楽しく豊かになる事を願い、

「**薬膳**」でみんなが**健康・元気**を下市町のふるさと名物として応援することをここに宣言します。



下市町長 枚本 龍昭